



▲児童集会 (大君小学校)

### Q いじめ問題は



### A 関係者全員で取り組む

教育長

Q 全国的にいじめを苦にした子どもの自殺や自殺予告の手紙が相次いでいる。私たち大人が今、子どもたちにどんなメッセージを発すればいいのか。また、いじめの現場にいれば傍観者にならずに声をあげてほしい

A と思う。江田島市内の学校では、いじめの問題は起きていないか。教師の指導、保護者を交えての対策等、ガラス張りの話し合いを望むが、教育委員会はどうにお考えか。

A いじめは決して許されないことであり、どの子どもにも、どの学校でも起こり得るものであると受け止めている。本市でも何件かの報告や相談があったが、問題が小さいうちに防ぐことができる。

学校のみで対応せず、保護者・教育委員会・地域等、関係者全員で取り組んでいきたい。

### Q 障害者の支援は



### A 国の動向を踏まえ検討

市長

越野 哲也 議員

Q 「障害者自立支援法」により、障害者の生活はさらに厳しくなっているが、市独自の支援策は。

A 国にさまざまな意見が寄せられ、利用者負担の軽減、事業者に対する激変緩和措置、新たなサービスへの移行等、改善策が具体化する動きとなっている。本市としても必要であれば補正予算を要求するなど、対応を検討する。

A 学校における諸問題の実態把握は、月1回の詳細な調査を実施している。市教委・学校現場は、常にいじめが起こり得るという問題意識のもとに、いじめのサインを見逃さず、児童生徒の安全確保に全力をあげる。



浜西 金満 議員

教育長



▲中田港に停泊中の市営船 (能美町中町)

### Q 「市営船」の大胆な改革を



### A 今後も経営努力を続ける

市長

登地 靖徳 議員

Q 交通船の現状認識として、①現状の船とダイヤを維持継続するには、年間7億2千万円の費用がいる。②平成17年度の欠損金1億円に続いて平成18年度もそれ以上の欠損金の見込み、さらに次年度以降も同様の欠

損金が続く。③燃料について、世界の状況は、原油価格が下落する可能性は低い。④交通船の効能・必要性について、通勤・通学も生活の重要な動脈であり、能美島地区の将来設計に不可欠な主要要素である。⑤赤字損失を

A 島民(市民)の必要不可欠な交通の必要経費とみるか、企業経営としての損失とみるかで評価は正反対になる。

A 黒字化の見通しが立たない。航路の統廃合を検討することも必要であるが、今後も公営船は維持すべきものと考えられる。公共の福祉の前進と独立採算制の経営を調和させながら、経営努力を

### Q 有害鳥獣対策の方針は



### A 3方針を執行

市長

山根 啓志 議員

Q 有害鳥獣であるイノシシによる被害が増大しているが、基本対策は。

A 今年10月末で、捕獲頭数152頭と個体数の増加、被害の拡大を懸念している。今後の基本方針は、①直接捕獲の拡大、猟

友会の理解を得て、通年捕獲体制に改める。②防護対策の改善。個々の防護では限界であり、集団及び共同の対策を奨励。③荒廃農地及び遊休農地の減少対策。和牛放牧を実施し、草地化を目指す。

Q 狩猟免許取得者は。 A 現在、約100名。助成制度を行い、多くの人に免許を取っていただきたい。 Q 江田島町の状況は。 A 古鷹山で足跡、幸ノ浦峠でイノシシを見

